

1. 平成22年度事業状況報告書

I 事業の状況

1. 郷土芸能に関する発表会の開催

(1) 全国こども民俗芸能大会:8月21日(土)

東京都新宿区の「日本青年館・大ホール」に於いて、『第12回全国こども民俗芸能大会』を開催した。観客数946名。

<内容>

全国各地より選出された様々な子どもたちの民俗芸能の披露及び情報交換・交流会を行った。

<出演団体>

- 北海道・東北ブロック 秋田県秋田市
「荒巻番楽」 荒巻番楽保存会
- 関東ブロック 群馬県沼田市【全郷芸会員枠】
「沼田祇園囃子」 沼田祇園囃子保存会連合会
- 関東ブロック 新潟県見附市
「小栗山の獅子舞」 小栗山不動院獅子舞保存会
- 関東ブロック 長野県飯田市【全郷芸会員枠】
「南信州の屋台獅子」 鼎中平獅子舞保存会
- 近畿・東海・北陸ブロック 三重県松坂市
「射和祇園祭囃子」 射和祇園祭囃子保存会
- 中国・四国ブロック 岡山県高梁市
「備中神楽」 成羽備中神楽育成会
- 九州・沖縄ブロック 宮崎県宮崎市
「青島臼太鼓踊り」 青島臼太鼓踊り保存会
- 海外招聘団体 インド
「南インドの伝統舞踊～モヒニヤッタム」ナタナカイシキ舞踊研究所

(2) 全国獅子舞フェスティバル:10月30日(土)31日(日)

『第13回全国獅子舞フェスティバル・飯田市』が長野県飯田市に於いて開催された。10月30日(土)の入場者数は400人、31日(日)の観客はのべ50,000人。

<内容・会場>

- 30日(土)獅子舞シンポジウム 会場:飯田市公民館
- 第1回全国創作獅子舞コンクール(市内4団体)
- 基調講演:櫻井弘人(飯田市美術博物館学芸係長)
「伊那谷の獅子舞ー最もパワフルな芸能の特質と可能性を探る」
- パネルディスカッション「伊那谷の獅子を語る」
- コーディネーター:小林賢二(鼎獅子舞保存会連合会会長)
- パネラー: 橋都正(飯田市文化財審議委員)
戸崎敬(鼎中平獅子舞保存会役員)
櫻井弘人(飯田市美術博物館学芸係長)
- アドバイザー: 高橋裕一(獅子博物館館長)

31日(日)招聘団体と飯田市、伊那地区の獅子舞の演舞

会場:飯田市中心市街地及び特設会場

<出演団体>

◇県外団体

- 行山流都鳥鹿踊(岩手県奥州市)
- 目黒流貫井囃子(東京都小金井市)
- 下梨獅子舞(富山県南砺市)
- 松任の獅子舞(石川県白山市)
- 数河獅子(岐阜県飛騨市)
- 伊勢大神楽(三重県桑名市)
- 曾爾の獅子舞(奈良県曾爾村)
- 因幡の麒麟獅子舞(鳥取県鳥取市)

◇海外団体

- 台湾慶和館醒獅団(台湾)

◇県内団体

- 飯田市、伊那地区の屋台獅子35団体
- 出演団体:合計44団体

(3)全国地芝居サミット:11月6日(土)、7日(日)

『第20回全国地芝居サミットin長浜』が、滋賀県長浜市の長浜文化芸術会館と長浜市曳山博物館に於いて以下の日程、内容で開催された。各地の地芝居関係18団体。宿泊を伴う参加者は約250名。

11月6日(土)11時 開会 会場:長浜文化芸術会館

曳山博物館子ども歌舞伎教室「弁慶上使」
基調講演:葛西聖司氏(NHKアナウンサー)

シンポジウム:全国地芝居連絡協議会

「先進地から学ぶ文化の継承」

長濱ゆう歌舞伎「重の井子別れ」

交流会(於:長浜ロイヤルホテル)

11月7日(日)9時~15時30分 会場:長浜市曳山博物館

歌舞伎上演、曳山博物館見学

○長浜曳山祭子ども歌舞伎

伊部町組翁山「引窓」

神戸町孔雀山「一力茶屋」

○米原曳山子ども歌舞伎南町組壽山「本朝廿四番」

○曳山博物館子ども歌舞伎教室子ども歌舞伎

2. 指導者、保存団体の育成

指導者研修会:8月21日(土)・22日(日)

21日:日本青年館大ホールにおいて開催された『第2回全国こども民俗芸能大会』のリハーサルを星野氏の解説付きで見学、その後公演を鑑賞した。

22日:指導者研修会「第7回伝統文化研修セミナー」を日本青年館中ホールに於いて開催した。参加者58名。

<内容>

基調講演「折口信夫にみる～古代の心と子どもの祭り」 講師:芳賀日出男(写真家)

事例発表 ①「晴山獅子舞」 青森県十和田市

晴山獅子舞保存会 会長 佐々木秀美

②「下町子供手踊り」 福島県南相馬市

下町子供手踊り保存会 会長 濱名 智

③「川名のひよんどり」 静岡県浜松市

川名ひよんどり保存会 会長 前嶋 功

④「御殿万歳」 愛知県東海市

東海市万歳保存会 会長 早川太美夫

パネルディスカッション

「民俗芸能で広がる子どもの世界～生きる力をはぐくむ伝統文化」

◎コーディネーター

小島 美子(国立歴史民俗博物館名誉教授)

○パネラー

入江 宣子(世田谷区生涯大学専任講師)

田村 学(国立教育政策研究所教育課程調査官)

星野 紘(東京文化財研究所名誉研究員)

宮田 繁幸(東京文化財研究所無形文化遺産部部長)

3. 情報の収集及び提供

(1)情報収集及び提供

ホームページは、主たる事業内容が確定次第に更新。平成22年7月、12月の2回。

(2)会報発行

第59号から第62号まで発行した。

○第59号 平成22年 4月15日 発行(26頁)

○第60号 平成22年 7月15日 発行(26頁)

○第61号 平成22年10月15日 発行(24頁)

○第62号 平成23年 1月15日 発行(24頁)

4. 出版物の発行

全郷芸編「日本の祭り文化事典」(発行:東京書籍)の普及を行った。

5. 国際交流

平成22年度国際民俗芸能フェスティバル:平成23年2月23日(水)

文化庁主催事業として、海外よりカンボジア王国とモンゴル国。国内から東京都、神奈川県、三重県の計5団体を招聘し開催された。会場は国立劇場大劇場で昼夜の2回公演。全郷芸は制作を行った。

<招聘団体>

○カンボジア王国:「カンボジアの宮廷舞踊」カンボジア王立芸術大学舞踊団

○モンゴル国:「モンゴルの歌と踊り」モンゴリアン・メロディック・ライベーション

○東京都台東区:「浅草神社のびんざさら」神事びんざさら会

- 神奈川県湯河原町:「吉浜の鹿島踊」吉浜鹿島踊保存会
- 三重県桑名市:「伊勢太神楽」伊勢大神楽講社・加藤菊太夫組

6. 顕彰

6月12日(土)の第16回総会において、入会5年継続の団体会員6団体と、10年継続の団体会員3団体に感謝状を贈呈した。また団体の活動に尽力された8名に特別表彰を行った。

7. 調査研究

- (1)文化庁平成22年度「変容の危機にある無形の民俗文化財の記録作成の推進事業」報告書作成業務として「五島神楽」の現地調査を行い、調査報告書としてまとめた。
- (2)文化庁平成22年度「地域伝統文化総合活性化事業」の委託事業として「全国の地芝居と農村舞台の調査事業」を行った。

8. その他

- (1)かながわ伝統芸能祭「地芝居2011」:平成23年3月6日(日)

神奈川県事業として「神奈川県立青少年センターホール」において開催され、その舞台制作を行った。

<出演・演目>

- 入谷歌舞伎会(神奈川県座間市)

「奥州安達原三段目 袖萩祭文の場」

- 歌舞伎ワークショップ「歌舞伎の音－義太夫と所作」竹本弥乃太夫社中

- 大谷芸能保存会歌舞伎部会(神奈川県海老名市)

「一谷嫩軍記 熊谷陣屋の場」

- (2)東京都神社庁より委託を受け、日本橋三越本店7階展示場開催された「伊勢神宮展」に於いて下記の日程(1日2ステージ)で会員3団体の芸能披露を行った。

10月22日(金)「貫井囃子」目黒流貫井囃子保存会

10月25日(月)「八王子車人形」八王子市立由井中学校三味線部

10月26日(火)「江戸の里神楽」松本源之助社中